

市立札幌藻岩高等学校 第46期2学年 英語授業計画

1. 2年時終了までの到達目標

- (1)前年度までの既習事項を踏まえ、生徒が英語の4技能を統合的に活用する運用能力を身につける。
(2)英語4技能試験本番までに、できるだけ多くのinput/outputをする中で、英語力を高める。

2. 数値目標・ベンチマーク (コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅱ共通)

(1)2年時終了までの数値目標

- ①全生徒(315名)がCEFR A2レベルになる。→英検準2級合格/GTEC690点以上
②3分の1程度(100名)が、CEFR B1レベルになる。→英検2級合格/GTEC960点以上

(2)ベンチマーク

	実用英語技能検定(英検)	GTEC(4技能アセスメント)	進研模試	スタディサブリ到達度テスト	共通テスト対策模試
	6-7月/10-11月/1-2月	12月	7月/11月/1月	4月/10月	2月
理解の能力(Input)	○	○	○	○	○
表現の能力(Output)	○	○			
知識・理解(Grammar/Vocabulary)	○	○	○	○	○

3. 担当者の指導方針 (コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅱ共通)

- 教科書レッスンによって指導方法・所要時間数を変える。
○4技能をバランスよく取り扱い、自作ハンドアウトによって授業進行をコントロールし、見通しをもった指導を行う。教科書の内容は精選して取り扱う部分もあり得る。
○学んできた語句・表現・文法を活用する場面を設定し、生徒の言語使用を促す。
○スマートフォンやICT機器等のテクノロジーの力を適切に使い、必ずしも教員が担わなくてもよい業務はアウトソーシングすることで、本当に必要である英語指導に注力する業務フローを研究する。
→スタディサブリ・スタディサブリEnglishの積極的活用
○生徒全員に提出まで求める宿題と、発展的な課題を分けて生徒に提示する→学年フロア欄の活用
○過度な課題にならないように、他教科での状況も踏まえながら、適切な分量の宿題となるように配慮する→学年机課題ファイルの確認・課題のファイリング

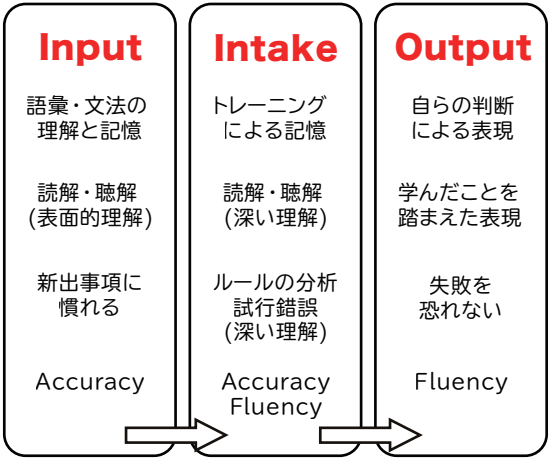
4. Classroom Englishの使用

- (1)教員→生徒だけでなく、生徒同士が英語でコミュニケーションを取るための表現を導入する。
(2)定型表現・会話パターンの型を指導し、年間を通して授業内での発話量を増やす。
(3)outputのためのモデル提示や教員による実演など、slow learnerのためのscaffoldingを行うことで、英語を使うことの抵抗感を下げる。

朝学習時間「朝10分活動」の活用

- ①Reading
○気軽に読める、様々なジャンルのテキストを読解し、楽しみながら読解力を育成する。
○厳密な評価は求めず、生徒が自らの力で正確に読解することを目指す。
○テキストの後に、内容確認のための簡単な問題をつけた教材を準備する。
②Listening
○英語の音に慣れ親しむために、スタディサブリEnglishを活用して、聴解力を育成する。
○生徒のレベルに応じて、各々の問題に挑戦する。
○スマホ等の機器がない生徒は、①Readingに取り組む(他の英語の宿題等は禁止する)。
③小テスト(スクランブル)
○学級副担任がテスト用紙配布→交換して採点・回収
○教科担任が回収し、成績に加味する。

コミュニケーション英語Ⅱでの言語習得モデル



実際は各段階を行きつ戻りつしながら進む

英語表現Ⅱでの言語習得モデル

